

クラス番号	601	担当教員名	浅原 千里
テーマ	重い知的障害のある人の利用者主体の支援システムを考える		
著書・論文	研究課題：社会福祉専門職養成における実習教育のあり方 / 障害をもつ学生の社会福祉実習教育 著書：『エッセンシャル社会福祉学』久美出版 2014 年出版予定（共著） 『社会福祉専門職論』中央法規出版 2007 年（共著）		
研究課題等	論文：「社会福祉士実習生のジレンマ体験の特徴とスーパービジョンのあり方―事例の分類を通して」日本福祉大学社会福祉論集 127 号 2012 年（単著）		

ゼミナール概要

キーワード：重い知的障害のある人 利用者主体の支援 自立 ソーシャルワークの価値と倫理 ケアワーク

私は教員になる前に勤務していた福祉施設で、知的障害のある自閉症の人を支援する仕事を通して「コミュニケーションは身体を張ってするもの」であることを学びました。具体的には、ことばによる意思表示や情報伝達、自己決定が難しい方の支援では、その人の生活や活動に寄り添い見守りや必要な介助―いわゆるケアワークを行う中で、五感を総動員してコミュニケーションをとり、なじみの関係―援助関係（ラポール）を構築するプロセスが大切だということです。そして、このような方々へのソーシャルワークにおいても、援助関係（ラポール）がベースになることは言うまでもありません。

障害福祉サービスを提供する事業所の人員配置基準では、ソーシャルワークとケアワークを担う職種を厳密に区別していませんが、そのような現状に対し、事業所内に直接支援部門とは別にソーシャルワーク専従部門を置くべきとする議論があります。その根底には、ソーシャルワークとケアワークは互いの専門領域を侵すべきでないという考え方があります。社会福祉士及び介護福祉士法は社会福祉士を「相談援助」を行なう者と定義しており、その養成教育はケアワークと一線を画する形で構成されています。重い知的障害のある人のさまざまな思いをくみとり、「利用者主体の支援」を展開しようとするとき、ソーシャルワークとケアワークの関係はどうあるのが望ましいのでしょうか？

このゼミでは、このような問題意識を出発点に、重い知的障害のある人の「利用者主体の支援」について、主体としての「利用者」をどのように理解するか、「自立」をどのようにとらえるか、どのような支援システムが有効であるか、等さまざまな角度から議論していきたいと思います。

授業計画：

- ①・【ゼミと並行して】ボランティアまたはアルバイトとして、知的障害のある方と継続的に関わってください。
- ②・【3 年次前期】テキスト購読により、「利用者主体」「利用者理解」「重い知的障害のある人の自立生活」「ソーシャルワークの価値・倫理と葛藤」などをキーワードに、ボランティアで知的障害のある人との関わりを通して考えたこと・学んだことをゼミメンバーと議論し、問題意識と考察を深めます。アセスメントや支援で活用される行動理論についても学習します。

（予定テキスト）

寺本晃久・末永弘・岡部耕典・岩橋誠治『良い支援？―知的障害／自閉の人たちの自立生活と支援』生活書院 2012 年

- ③・【3 年次前期～夏休み】南知多地域の障害者福祉現場でフィールドワークを行います。
- ④・【3 年次後期、春休み、春合宿】各自の問題意識を明確化し、研究テーマ、研究計画を設定します。
- ⑤・【4 年次前期】研究テーマを深めるための文献探索とフィールドワークを行い、ノートを作成します。
- ⑥・【4 年次前期～夏休み】テーマについて自分の見解を論文にまとめます。

※ 自閉症児者の支援で活用されることの多い「TEACCH プログラム」についても、学習機会を持つ予定です。

担当教員からのメッセージ

知的障害のある人や子どもの支援に関心のある方は、ぜひこのゼミにエントリーしてください。自己決定や意思表示が困難な人の支援では、人間の尊厳や社会正義をめざす福祉実践が本物であるかどうかを試されます。この仕事は知力・気力・体力を要しますが、ストレートな感情表現や体当たりでコミュニケーションされる利用者さんとの関わりは刺激的で、気持ちが通じ合えた（と感じる）ときには何物にも換え難い喜びがあります。エントリーシートには、①将来の希望進路 ②これまでの学習や体験を通して知的障害のある人の支援についてあなたが感じていること考えていることを、詳しく書いて下さい。